

令和7年度 第3回下呂市環境審議会 議事録

日 時	令和8年2月26日(木) 午後1時30分から午後3時30分まで	
場 所	ふれあいセンター 3階 会議室	
出席者	<p>会長 下呂市森林管理委員会 委員長 伊藤 栄一</p> <p>副会長 (一社)馬瀬地方自然公園づくり委員会 会長 小池 永司</p> <p>委員 岐阜県 飛騨県事務所 環境課長 保木口 良成</p> <p>委員 下呂市連合自治会 会長 西 博志</p> <p>委員 下呂市農地利用最適化推進委員 杉山 裕</p> <p>委員 下呂市文化財審議委員 遠藤 卓(欠席)</p> <p>委員 (一社)下呂建設業協会 理事 金子 健一郎</p> <p>委員 下呂市商工会連絡協議会 副会長 河尻 和憲</p> <p>委員 (一社)下呂温泉観光協会 青年部 部長 日下部 孝</p> <p>委員 中部電力パワーグリッド(株)高山支社 総務グループ グループ長 平井 克己</p> <p>事務局 環境部長 中島 一栄</p> <p>環境部 環境対策課長 波多野 一樹</p> <p>環境対策課課長補佐 浅里 健</p> <p>環境対策課主任主査 土屋 歩</p> <p>業務受託者 (株)テイコク 永縄 芳之</p> <p>田澤 義之</p> <p>児玉 光樹</p>	
次 第	<p>1 開会</p> <p>2 あいさつ</p> <p>3 協議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第三次下呂市環境基本計画の最終案について ・計画の進行管理について ・意見書について <p>4 その他</p> <p>5 閉会</p>	

議 事 要 旨	1 開会	
	2 あいさつ	
	3 議事	
	・ 第三次下呂市環境基本計画の最終案について	
	○パブリックコメントの実施結果	
	事務局 説明	
	○第2回環境審議会における委員の意見の反映状況、パブリックコメントの反映状況を踏まえた、第三次下呂市環境基本計画（最終案）	
	テイコク 説明	
	委員	P. 50-52 の温室効果ガス将来推計について、人口減少、産業衰退に加え、森林吸収量も確保できるため、何もしなくてもゼロカーボンの達成が可能という考えでよいか。
	事務局	何もしないということではなく、温室効果ガス削減の取り組みによって更なる排出削減を目指すという構成である。
	委員	計画の周知についてはどのように考えているか。人口の減少に対してごみの減少量が少なく感じる。このまま市民に伝えたと、市民には何もしなくて良いという印象を与えるのではないか。
	委員	ゼロカーボンについては、下呂市として達成すればよいという訳ではなく、地球規模の地球温暖化という課題に対して下呂市の森林吸収量をどれだけ増やしていくか、社会に対してどのように還元していくかが重要である。ゼロカーボンの実現に向けて、なりゆきに任せるのではなく、積極的に取り組んでいくことを示せると良い。概要版を作成する際には、これらが市民に伝わる構成とする。
	事務局	国の施策に準じればゼロカーボンの達成は見込まれるが、更なる温室効果ガスの削減を目指し、それを環境価値と捉えてウェルビーイングに繋げていく表現としている。
	委員	P. 52 6.7 下呂市が目指す将来像について、さらに環境価値を高めていくよう書き方を工夫する必要がある。概要版については数値を示すことも重要だが、何を市民とともにやって行くかを明確に示すことが重要である。また、学校の教育への活用等も見据え、概要版の構成を検討すべきである。
・ 計画の進行管理について		
事務局 説明		
・ 意見書について		
事務局 説明		
委員	意見書の内容が抽象的なため、もう少し具体的な内容を記載できないか。	
委員	「下呂市環境審議会の委嘱を受け」ではなく、「下呂市環境審議会へ委嘱を受けた」が正しい表現である。また、諮問に対する答申ではない認識である。委員の意見は、付帯意見として挙げた3項目につ	

	いて、より具体的な内容とした方がいいという意見だが、皆様の意見はどうか。
委員 事務局	先ほどの PDCA チェックシートについては誰が評価するか。数値目標を掲げているものは各担当課による評価、取り組み内容についても各担当課への聞き取りによる評価、市民や事業者についてはアンケートによる評価と考えている。
委員 事務局	その中で、チェックシートのみでは環境審議会の役割が読み取れないが、役割はどのように考えるか。計画に対する問題点は毎年チェックされる認識でよいか。環境審議会に出席される委員の民様は各団体の代表者であり、市民の代表的な意見を持つという役割もある。また、目標数値のみでなく、審議会の中で計画に対してのブラッシュアップの役割を担っていただく考えである。
委員 事務局	計画の満足度、達成度については毎年度チェックをしていくとのことだが、地域による取り組みの温度差があると考えられる。市民だけでなく自治会へのアンケートも重要と考えるが、実施する予定はあるか。
委員 事務局	評価にあたっては、審議会でのチェックのみでなく、アンケートも取っていく必要はあると考える。
委員 事務局	PDCA の具体的な進め方や手法について、まだ想定していないと考えられ、今後検討していく必要がある。審議会の運営規則等に計画のチェックも含まれているかを確認する必要がある、含まれていないのであれば審議会の役割として示すべきと考える。
委員 事務局	PDCA は 1 年経過しないと数値を反映できず評価できないため、令和 8 年度に開催する審議会ではチェックの仕方、チェック項目を審議できればと考えている。
委員	下呂市環境基本条例第 16 条 2 (1) には、「環境基本計画の策定及び変更に関すること」と記述があるため、目標が達成できそうにない、目標を上方修正したいという場合には、市長からの諮問があれば審議会を開催して対応すればよいのではないかと。下呂市環境基本条例第 7 条 3 には、「市長は、環境基本計画を定めようとするときは、あらかじめ下呂市環境審議会の意見を聞かなければならない」とあるため、報告ではなく意見書の提出とした方がよいのではないかと。
委員	報告の文言は削除し、意見書として提出する。委員の指摘である、付帯意見の 3 項目の内容についてはどのように対応すればよいか悩ましい。
委員	具体的な数値を示すことでより実効性の高い計画になるのではないかと。記 3 に「計画の着実な実施に向け」と記載があるが、具体的な数値目標を示すなど強い文言とした方がよいのではないかと。
委員	記 2 には「地球沸騰化」や「下呂市ゼロカーボンシティ」といった具体的な文言があるが、記 3 には「計画の着実な実施」という抽象的な文言となっているため、ごみの減量化や、資源の再利用化等、より具体的な文言を含めてはどうか。
委員	本計画の策定の背景として、ゼロカーボンシティ宣言をどのように支えていくかということがある。数値目標は全ての施策に対しては示しておらず、数値目標の達成状況のみで評価するべきではなくブラッシュアップを図ることが重要。前計画はごみの減量化をベース

	<p>としていたが、本計画はごみの減量化にゼロカーボンを加えた計画という経緯がある。加えて、自然環境の保全や生物多様性も重要であるが、現状は具体的な計画や数値目標を設定できないため、今後ブラッシュアップを図っていくことを意見書として盛り込む必要がある。審議会として強く伝えたい内容を意見書に盛り込む必要があるという印象である。</p> <p>委員 個人の意見としては自然環境、ごみの減量化、再資源化が含まれるとありがたい。</p> <p>委員 計画のブラッシュアップによって、計画自体が定着していくと考える。絵に描いた餅にならないように、PDCA チェックを行えると良い。</p> <p>委員 数値目標に入っていない項目については、今後どのように進めていくか検討していかなければならない。これは、PDCA のチェックを待たずに、計画が発動した時点で考えるべきである。PDCA チェックのためのみに審議会を開催するのではなく、計画のブラッシュアップに向けた意見徴収の場でもあるという考えである。</p> <p>4 その他</p> <p>5 閉会</p>
--	---